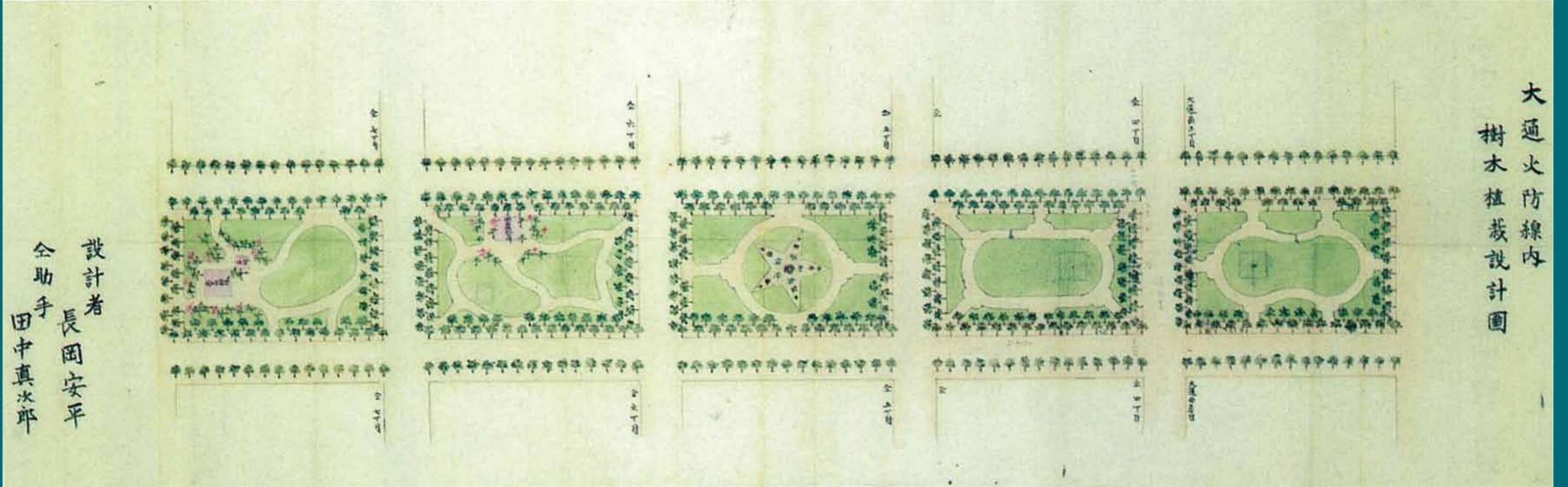


大通公園 (札幌市)



大通火防線内植木植栽設計図 1909 (明治42)年

火防線から市民に愛される都心の園へ

大通公園は1871 (明治4)年、北の官地と南の民地を分け隔てる幅58間の火防線として形成され、今日においても基盤の目状に広がる札幌市における南北軸の基線としての存在は重要である。

また1909 (明治42)年、円山公園や中島公園とともに東京市の公園技師であった長岡安平による設計という背景や時代によりその機能を火防線から逍遙地、イベント広場と変化しながら、様々な博覧会の場として活用されてきた歴史性、さらに1952 (昭和27)年より続く大通花壇造成による花文化の発信など市民に愛されつづけている都市公園として貴重である。



大通公園内にあるイサムノグチのブラック・スライド・マントラ



テレビ塔から見た大通公園全景

概要

名称	大通公園
所在地	札幌市中央区大通西1～12丁目
管理者	札幌市
規模	7.9ha (全長：約1.5km)
種別等	都市公園 (特殊公園)
整備年	1909 (明治42)年 長岡安平の植栽設計
告示年	1980 (昭和55)年 都市公園告示

冬期間は1950 (昭和25)年から開催される雪まつりの会場となる